



学校だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yokohamafukayadai>

令和5年4月7日

4月号

横浜市立横浜深谷台小学校

校長 角井 治朗

新年度のスタートにあたって

校長 角井 治朗

春のやわらかい風が吹く中、いよいよ新年度が始まりました。例年より早い春の訪れに、すでに桜の花は散り始めていますが、それに代わって木々に広がる鮮やかな若葉が、元気に新年度をスタートした子どもたちの姿と重なります。希望を胸に新年度を迎えられたお子様のご入学、ご進級おめでとうございます。令和5年度は、新一年生60名を迎え、全校児童313名での新たなスタートとなりました。子どもたち一人ひとりが一日も早く新しい環境に慣れ、楽しく生活できるよう、全職員で温かく見守り支援していきます。

さて、教育活動が新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けるようになってから丸3年が経過し、この4月からは、ようやく学校での生活も新たな局面を迎えます。学校におけるマスクの着用の考え方についても4月から変更になり、教育活動の中で、基本的にマスクの着用を求めないようになりました。

(※ただし衛生面への配慮から、コロナ禍以前より給食準備中はマスクを着用します。) また、5月8日からは現在の2類から5類へ取扱いが変更されることから、一層の制限緩和が予想され、まさにコロナ禍が出口に近づいているように感じます。

そのような中、令和5年度のスタートを迎えるにあたって、今年度は次の二つのことを柱に学校運営を進めていきたいと考えています。まず一つ目は、アフターコロナを見据えた教育活動の再編成です。コロナ禍により、学校は、これまで当たり前のように行ってきた教育活動の見直しを迫られました。同時に、GIGAスクール構想の推進など、新たな取組も進みました。こうした状況を丁寧に振り返り、本校の子どもたちにとって本当に大切にしたいことは何かを改めて見極めながら、限られた教育資源に軽重を付けて取り組んでいく必要があると考えています。そして、二つ目は、コロナ禍により失われたり希薄になったりしてきた様々な“つながり”の再構築です。これまで保護者、地域の方々とともに培ってきた本校のよさを大切にしつつ、より一層、子どもたちにとって充実した学びの場へとステップアップを図ることができるよう「人」「もの」「こと」とのつながりを模索していきます。

目標の実現に向かって、学校、家庭、地域がしっかりと連携し、子どもたちの成長につなげるために、職員一同、一丸となって取り組んでいきますので、どうか皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

<横浜深谷台小学校教育目標>

「地域を愛し、地域を創る」

～ふれあい 学びあい 認めあう 横浜深谷台の子～

- 自主的に学習に取り組み、解決に向けて粘り強く取り組む力を育てます(知)
- 互いのよさを認め合い、自他を大切にできる思いやりの心を育てます(徳)
- 規則正しい生活を心がけ、自他の生命や身体を大切にする力を育てます(体)
- まちとの関わりを大切にし、自分でできることを考えて主体的に実践する力を育てます(公)
- 人との関わりを通して、視野を広げて物事をとらえる力を育てます(開)